

旧蔵内邸

国指定名勝 (使園 = 残27年3月10日指定)
 福岡県指定建造物
 国登録文化財

敷地面積 7135 m²
 延床面積 1250 m²

旧蔵内邸は、明治38年頃に先が2階建の主屋と応接間棟・庭園が造られ、その後大正5年、蔵内鉱業株式会社設立と同時に社長の蔵内保房が、一族の繁栄の証として、邸宅・神社・参道・銅像広場など周辺を一体的に整備した。

現在の蔵内邸住宅は大正9年に完成したものである。

鳥居から始まる導入路の参道石垣や塀、石橋、庭石の石造物、そして銅像広場の石垣にも地元の花崗岩が使われ、全体が近代的な優れた造形、意匠、工法でまとめられ、周辺の景観と共に当時の状態をよく残っており、近代の建築、庭園として極めて重要な厂史遺産である。

邸宅は大胆な屋根構成として畳間の大玄関や18畳2室続きの大広間、10畳2室続きの座敷、煎茶の茶室が池庭に面して配置され、大理石の浴室や脱衣室を備え、接客を重視した構成となっている。

柱や床板には台湾檜を、また屋久杉をふんだんに使った畳廊下の弓形天井や格天井など、意匠を凝らした造りとなっている。部屋ごとに意匠が違ふ欄間には、蓮欄間、彫刻欄間、透彫欄間、組子欄間、箒(おさ)欄間があり、その緻密な細工には目を見張るものがある。仏間の内陣の折上格天井には屋久杉と黒柿を市松模様配にし、壁紙には、西洋の装飾草工法を和紙で加えて模した金唐草紙が使用されている。この金唐草紙は、現存するものでは国内最古級のものである。その他に、襦の取手、特注の

照明や竹を模した雨樋など、細部に至るまで手の込んだ細工が施されている。当時の地方棟梁や職人の作に高い技量がかうかがわれる。